

# Campus Today



松本歯科大学

発行所 学校法人 松本歯科大学

長野県塩尻市広丘郷原1780

(0263) 52-3100

www.mdu.ac.jp

1部60円

## 西本智実さん指揮「桜コンサート」盛大に



西本さんの指揮で名曲を届け観客を魅了したイルミナートフィルによる桜コンサート

### 八重桜の下でさまざまなイベント

#### 多くの人でにぎわう観桜会

学内にあるさまざまな桜の中でも、一段とあでやかな八重桜の咲く時期に開く恒例の「観桜会」が4月29日（月・祝）華やかに開かれた。新型コロナウイルスの流行があったため6年ぶりの開催で、訪れた人たちが、桜とともに野外での邦楽演奏や茶席、病院の健康イベント、指揮者・西本智実さん率いるイルミナートフィルハーモニーオーケストラの「桜コンサート」などの催しを楽しんだ。学生による大学祭「松濤祭」も同時開催され、キャンパス全体がにぎやかな雰囲気包まれた。

観桜会は、希少種を含む多種多様な八重桜を楽しんでもらおうと1995年に始まり、今年で24回目。招待客や一般市民など多くの人が訪れ、本部館前に設けた観桜会受付で会場の地図やチラシを受け取ると、キャンパス内を思い思いに巡って楽しんでいた。

素人そば打ち名人の赤羽章司さんと関係者による信州そば打ちの実演販売、病院企画による健康講座など、建物の内外でさまざまな催しがあった。ミニSLコーナーや飲食屋台は、子供たちに大人気となっていた。松本市から友人と訪れた保育士の女性（64）は「これだけいろいろな種類の八重桜が見られる所はこの近くにはないと思う。ほとんどの八重桜がちょうど見ごろで最高です」と、催しを楽しみながら、スマートフォンで熱心に桜を撮影していた。



中庭を雅びやかな雰囲気包んだ箏や尺八の演奏

一般来場者、職員など、2回公演で約1400人が鑑賞し、澄んだ音色を堪能した。各公演とも、本校校歌「あ、渺々の蒼穹に」の演奏と、演奏に合わせた観客による斉唱で幕を開けた。特別なプログラム編成で行われ、ロッシニの「歌劇『ウィリアム・テル』序曲『フィナーレ』」や、ドヴォルザーク「スラヴ舞曲第10番」、チャイコフスキーの「バレエ『白鳥の湖』より『終曲』」など、親しみやすい名曲が次々と届けられた。ベートーベン「交響曲第6番『田園』より第1楽章「抜粋」のプログラムでは、チューニングの遅い曲の印象が変わることを感じ取ってもらおうと、作曲された時代に近い435ヘルツと、現在の442ヘルツの二つのパターンで披露。西本さんが音楽が心身に及ぼす影響について丁寧に解説した。また、西本さんが客席に説明しながら、楽器から出る音の振動で、フィルムの上に広げた塩の粒子が動き、幾何学的な模様を作り出す様子をスクリーンに映し、音を可視化して楽しませる場面もあった。

イルミナートフィルは、バチカン国際音楽祭名誉パトナーオーケストラとなっていることから、西本さんは2013年から、バチカンでも精力的に活動していて、「今から見つかることもある。皆さんもフロンティアとなり、新しい世界をつくっていただく」と自らの経験を伝えながら、学生にエールを送った。アンコールでは「シュトラウスの『ラデツキー行進曲』」を盛大に届け、会場から大きな拍手が湧き起こった。



祭の雰囲気を盛り上げる屋台

### 学生たちが全力で楽しむ

#### 従来規模の松濤祭を開催

第36回「松濤祭」が4月29日（月・祝）、松本歯科大学病院外来第2駐車場で行われた。「返り咲け桜」をテーマに、学生たちがさまざまな工夫を凝らし、ステージイベントやスマイルフォトコンテスト、ユニークな屋台などを運営、朝早くから多くの人が訪れた。

コロナ禍の影響を受け昨秋、4年ぶりに規模を縮小して開催したが、従来規模での開催は5年ぶりとなった。開会式で勢よく幕開けすると、特設ステージに軽音楽部のバンドが次々と登場し、この日に合わせて準備してきた楽曲を披露。観客を巻き込み盛り上げた。ステージには全国屈指の活躍

を誇る、松本市の松本蟻ヶ崎高校書道部や、茅野市の東海大諏訪高校吹奏楽部も登場した。蟻ヶ崎高校書道部は、独特のパフォーマンスで観客をひきつけ、桜をあしらった大きな紙に松濤祭のテーマと「歯の輝きは健康の証」などの言葉とともに、のびやかな文字で「結実」と記し、会場から大きな拍手が送られた。



観客と一体となって楽しむ軽音楽部のグループ

人、ピン芸人のゴ☆☆ジャスさん、ピアノを弾きながら、「クレヨンしんちゃん」ののまねをして歌う動画で注目を集め、テレビの情報番組でも活躍している長野県出身のまなまる（永藤まな）さんで、それぞれ個性あふれるステージを繰り広げた。テレビやYouTubeなど幅広い活動で人気の高い3人の姿が目の前で見られる機会とあって、特設ステージの周辺には多くの人が詰めかけた。

会場には、歯学部1年生や部活、衛生学院生でつくるグループが、唐揚げやポップコーン、焼きそば、ワッフルといった食べ物を販売したり、歯科材料を使ったものづくりや、テニスボールを使ったストラックアウトなどの楽しい体験を提供したりする出店が並び、どれも好評となっていた。写真部の協力で、お口の健康とも密接な笑顔をテーマにした公募式の「スマイルフォトコンテスト」も行われた。松濤祭実行委員長で第3学年の木ノ島旺君は「ようやく従来の規模で開催できた。この機会に松本歯科大学のことをいろいろ知る人に知ってもらいながら、自分たちも楽しみたい」と話していた。



## 世界で賞賛を浴びる岸田首相を日本人は知らない

内閣官房参与  
松本歯科大学常務理事  
特命教授 飯島 勲

今月号は『プレジデント』5月31日号「リーダーの掟 飯島 勲」より、岸田文雄首相が賞賛を浴びた米国訪問の内容についての記事を要約して紹介します。

今回は、岸田文雄首相の国賓 招待での米国訪問をテーマとし、私が知る限り、首相の外国訪問としては最も成功したといえるくらい、充実した内容だったからである。

まず、訪米のハイライトともいえる連邦議会の演説から。「未来に向けて―我々のグローバル・パートナーシップ」と題した演説は、出席した米国の議員たちから何度も笑いを引き出した。拍手もすごかった。議場の盛り上がり方には本当に驚かされた。

演台に立った岸田首相はまず、「日本の国会では、これほど素敵な拍手を受けることはありません」と自虐ネタから

もう一つ、拍手の大きさが印象的だったのは、日米の宇宙開発の協力に関連して、当日議場に來ていた日本人宇宙飛行士の星出彰彦さんと、日系米国人の元宇宙飛行士ダニエル・タニさんを紹介した場面だ。「星出氏とタニ氏は、宇宙における日米協力の象徴的存在」と述べる

と述べている。岸田首相のこの紹介は、傍聴席にいる裕子夫人を前に、傍聴席にいる裕子夫人を紹介。「私が裕子と結婚したという一事をもって、私の決断すべてが正しいものであると、皆様に信用いただけるのではないでしようか」とのろけながら、自身の信頼性をアピールして聴衆の心をつかんだ。欧米の要人のスピーチでは、夫人がよく登場するが、日本の政治家の演説で夫人が登場したのは記憶にない。おそらく、史上初なのではないかと思う。いきなり夫人の紹介から演説を始めたものだから、この導人は米国人にウケた。

私も海外の要人と会う際にはウケを狙ってしまふことがあるので、少し嫉妬を覚えるほどだ。

ここでは、首相官邸ホームページに掲載された和訳から演説の内容を引用しているが、実際の演説は全編英語で行われている。幼少期を米国で過ごした首相の英語はさすがだったと思う。私は英語はさっぱりわから

ないのだが、周囲の米国人たちが本気で喜んでいたら、首相の意図がきちんと伝わっていたのだと思う。



バイデン大統領夫妻と岸田首相夫妻

もよくわる。

岸田首相は、トヨタの建設中の自動車用電池工場と、ホンダジェットの工場を視察。「現代の日米のサプライチェーン協力や先端技術協力を象徴する取り組みだ」と絶賛した。岸田首相がノースカロライナに立ち寄ったのは、ワシントンのホワイトハウス中心の安全保障に焦点をあてた外交だけではなく、日米関係が社会の幅広い層に支えられていることを確認したかったからだという。さすが「外交の岸田」といえる内容だった。

岸田首相ばかりをほめてしまつたが、私は今回の訪米の成功は、外務省の本省チームと、駐米大使館の現地受け入れチームの協力関係があったことも大きいと思う。

4月8日、14日の1週間にぎりぎり詰められたスケジュールは、随行員向けの事前説明会から大変なことになる。首脳会談の議題とその背景、訪問先の情報など、事前に知っておくべき

内容は幅広い。過去の外国訪問では、一瞬、用足しで離席して戻ると、話が進んでしまつて、内容がまったくわからないといったこともあったのだが、今回の資料はよく整理されていて、後で読み返せばすぐに理解できた。人の動線や、クルマの停車位置、写真撮影の場所など、私が気になるポイントも微に入り細に入り、的確な説明がなされていた。個人的には過去最高の資料で気に入っている。

現地では、各省庁の官僚たちが、宿舍の手配や配車係などの裏方としてサポートしていて、すべてが円滑に進んだ。首相の外国訪問は、どんなに事前に準備を重ねても、現地では何らかのトラブルが起きるものだが、本省の有馬裕・北米局長と、山田重夫・駐米大使の連携がよほどうまく行ったのだろう。完璧な手配だった。岸田首相の演説ではないが、外務省、関係省庁のスタッフ全員にスタンディングオベーションを送りたい。

## 創立者の「視点」



大学誌編集主幹  
特任教授 笠原 浩

1960年代の「ムシ歯の洪水」との苦闘について語ってきた。現代の若い歯科医療者の皆さんには、信じられないような話が少なくはなかったに違いない。

今でこそ、わが国の子どもの歯の齲蝕罹患率は世界的に見ても誇れるような低水準となっているが、それは幼児の介助歯磨きを普及し、定期的な歯科健診を定着させるなどの口腔衛生生活動が、当時の歯科医師・歯科衛生士たちの努力によつて広まった成果である

を。歯科大学での小児歯科講義の設置が必須のものとなされ、それらに先導されての小児歯科医療が発展したのも、健康保険での低年齢児歯科医療への加算が認められるようになったのも、先人たちの国の政策的な面への働きかけによるところが大きい。

開発途上国ではまだ子どもたちがムシ歯で苦しんでいる状況を見ると、「水道水のフッ素化」といった過激な手段を用いることもなしにこうした改善を達成した日本の歯科医療関係者は表彰に値すると思える。ところで、日本人の口腔内はわずか半世紀の間に劇的に変化しているのだ。昭和32（1957）年以降5～6年毎に行われている歯科疾患実態調査報告で、約60年前から現在までの変わりようを見てみよう。1975年には97%を超えていた齲蝕罹患率は、徐々に

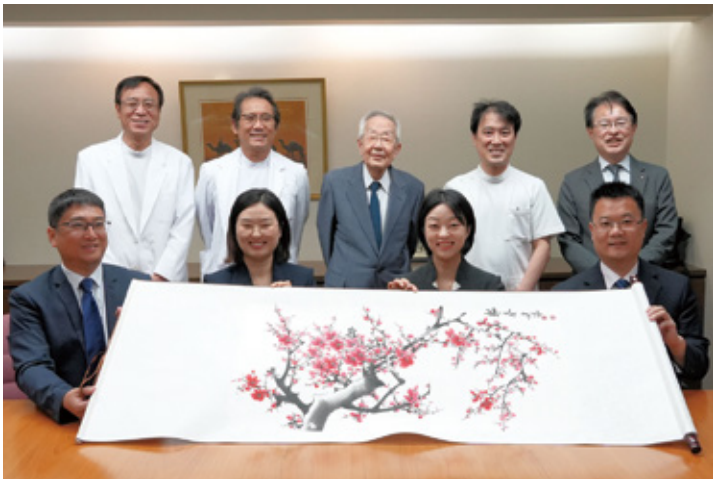
はあるが次第に低下し2022年には約87%となっている。これは「ムシ歯の洪水」を経験した世代が生きている間は仕方がないことである。しかし、幼児や学童の齲蝕の激減は目覚ましいもので、70年代にはほとんど皆無に近かった「齲蝕のない者」が最近の調査では5～9歳で約98%、10～14歳で約68%を記録している。

かつては成人の2人に1人以上とされていた歯周病についても、大幅な改善が成し遂げられた状況を見ることができ、「歯科疾患の多くは、適切なケアで予防できる」という事実を、まさしく実証したと言ふべきであろう。

## 60年前の歯科医療(16)

もうひとつの重大な変化は高齢者の歯の喪失の大幅な減少である。1975年には70歳の1人平均喪失歯数は約20歯、つまり「70マイナス20」で、後期高齢者ともなれば過半数が無歯となっていた。本学創立者の矢ヶ崎康先生も、初代病院長も、開業医であった筆者の父親も、いずれも無歯で、筆者自身が給義歯を製作した覚えがある。

## 中国の歯科医師4人が来学 病院で約6カ月間の研修スタート



研修を始める中国の歯科医師4人（前列）と本学関係者

中国河北省の歯科医師たちの研修するのは、河北省衛生健康委員から派遣された4人で、11月7日（木）までの約6カ月間、

専修生として、口腔外科や補綴科など、それぞれの専門性に合わせて研修を積む。

研修に先立ち、専修生たちは学長室に川原一祐学長を訪ね、受け入れに対する感謝を伝え、中国から持参した紅梅の絵の掛け軸を贈った。その場で宇田川信之歯学部部長や、実際に指導を受ける樋口大輔病院長や初診室の内田啓一特任教授などとも対面を果たした。川原学長は「日本と中国で治療に関して違うところもあると思うが、そこをうまく活用して、さらによい診療ができれば、意義ある研修にしてください」と研修の成果に期待を示した。

専修生の1人で、河北省人民病院に勤務する楊玉鵬さんは「松本歯科大学で研修をした大勢の先輩が中国で活躍している。私たちも頑張りたい」と抱負を語っていた。

本学の公式な外国人専修生の受け入れは、コロナ禍で一時中断していたため、3年ぶりとなる。専修生と研修先は以下のとおり。

▽岳磊▽口腔外科▽楊玉鵬  
▽口腔外科、インプラントセンター▽路月亭▽補綴科▽趙増波▽初診室

## 松本歯科大学病院が専用車両を導入 訪問歯科診療や出前講義などに活用

本学病院はこの春、病院専用車両を導入した。訪問歯科診療や出前講義など、スタッフが病院を出て地域で活動する際に活用していく。

導入したのは5人乗りの普通車。色はカーキ系のパールメタリックで、内部の荷物スペースが広く、訪問歯科診療を行う際などに必要な大きな器材も、積み下ろしがしやすい構造となっている。

専用車両導入前は、大学法人の車両を借りるなどして対応していたが、急な要請に応じにくいケースもあった。また、使用する器材もその都度積み替える必要があったため、スタッフの作業負担も大きかった。

訪問歯科診療は本年度から、実施可能要件の解釈が拡大されるなどしたため、さらなる需要増が見込まれ、本学病院が定期的に訪問歯科診療を行う施設も



専用車両導入を喜ぶ笠原事務長（左）とスタッフ

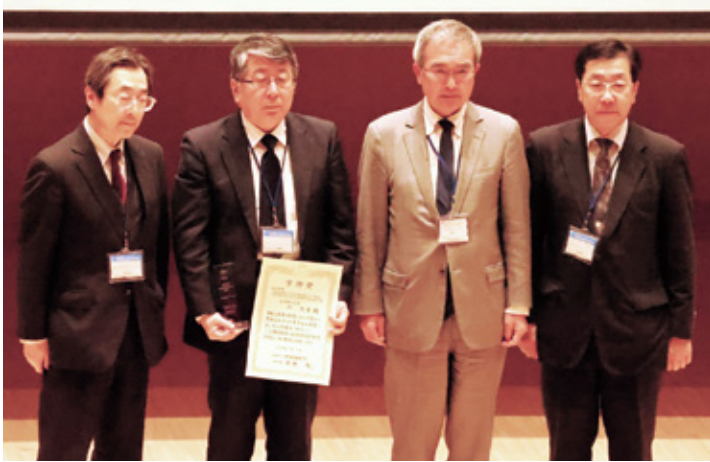
増加傾向となっている。新たに4月からは松本市内の民間病院、6月からは安曇野市の県立こども病院でも訪問歯科診療を始めていて、別の施設からも複数要請があるという。

笠原哲三事務長は「専用車両の導入を機に、病院の持つ専門的な知識や経験を活用してさらに地域に貢献していきたい」と話している。



内科学 川 茂幸特任教授が日本消化器病学会学術賞を受賞

## 「IgG4 関連疾患」の疾患概念確立に大きく貢献

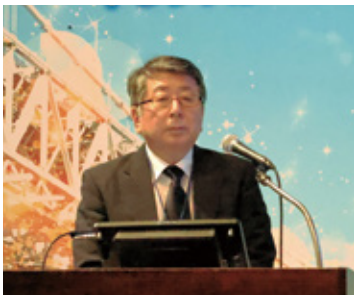


総会の中で行われた表彰式で表彰される川医師（左から2番目）

内科学特任教授の川茂幸医師が第8回日本消化器病学会学術賞（臨床分野）に決まり5月9日（木）、徳島県で開催された第110回日本消化器病学会総会で表彰式が行われた。長年にわたり全身性疾患の「IgG（アイジージー）4関連疾患」の学際的、世界的な研究の発展に貢献した功績が高く評価された。

日本消化器病学会は1898年に発足した歴史ある学会で、3万5000人余りの会員を持つ。学術賞は、学会の発展に大きく貢献した会員の功績を学術的に顕彰することを目的に創設された。例年、基礎と臨床の2分野で1人ずつ選考されるが、該当者がいない年もある。

今回、川医師は「自己免疫性腭炎におけるIgG4の関与の解明とIgG4が関連する全身性疾患の提唱、ならびにIgG4関連疾患の疾患概念確立への貢献」の功績で受賞した。IgG4関連疾患は、免疫グロブリンIgG4が関与する全身性疾患で、腭臓、涙腺、唾液腺、腎臓、肺、血管など全身の多くの臓器が罹患し、機能障害をきたす原因不



受賞を記念して特別講演をする川医師

明の病気として知られている。川医師が前任の信大医学部第2内科学教室の助教授時代に研究を主導し、世界に先駆けて、代表的なIgG4関連疾患である自己免疫性腭炎とIgG4に関する二つの論文を、2001年に『New Engl J Med』(NEJM)誌、2002年に『Lancet』誌に発表し、この疾患の概念確立の礎となった（High serum IgG4 concentrations in patients with sclerosing pancreatitis. NEJM 344:732-8, 2001. Hydronephrosis associated

with retroperitoneal fibrosis and sclerosing pancreatitis. Lancet. 359:1403-4, 2002）。『NEJM』、『Lancet』両誌は国際的に信頼されている世界五大医学雑誌に含まれ、両論文の被引用回数は2023年4月24日時点Web of Scienceでそれぞれ1826, 400 Google Scholarで3182, 683と全世界で高く評価されている。また、二つの論文発表を機に各方面でIgG4関連疾患研究に弾みが付き、各種診断基準、ガイドラインなどに

も広く引用されるようになった。その後、川医師自身もさらに研究を進め、自己免疫性腭炎の診断体系の確立や病態・病因解明の研究を主導し、IgG4関連疾患という、現代では極めて珍しい新規疾患の疾患概念確立に尽力した。

川医師は表彰式の翌10日（金）、受賞を記念した特別講演も行い、聴講者は世界的に注目を集めている「IgG4関連疾患」の疾患概念確立に大きく貢献した川医師の取り組みにあらため

て高い関心を寄せた。川医師は1977年に信大医学部を卒業し、第二内科学教室に入局。専門の腭臓に関する臨床研究の過程で、1994年から「IgG4関連疾患研究」に着目してきた。およそ半世紀にわたる臨床研究生活では、研究に没頭するあまり、稀にしか帰宅できず、「飼犬に牙をむかれた時期もあった」と振り返る。2005年から信大総合健康安全センターセンター長・教授を務めた後に退官し、2017年から

## ミーティングで本学教授が特別講演や事例報告 長野県歯科インプラントネットワーク

より安全で確かな歯科インプラント治療を目指し研さんする歯科医療関係者でつくる「長野県歯科インプラントネットワーク（NDIN）」（世話人代表・植田章夫 本学口腔インプラント科特任教授）の第12回ミーティングが3月24日（日）、松本市立博物館で開かれた。市民公開講座や会員向けに特別講演などを行い、最新情報を共有し、学び合った。

市民公開講座では、信州大学医学部歯科口腔外科学教室の酒井洋徳講師が「歯科インプラント治療でできること・起きること」NDINの関わり」と題して講演した。座長は本学口腔顎顔面外科学講座の栗原祐史教授が務めた。酒井講師は「インプラント治療の完成度は年々高まり、現在は予知性の高い治療になってきた」としつつ、上顎洞内へのインプラント迷入や下歯槽神経麻痺などトラブルの可能性もあることを丁寧に説明。参加者から、受診先選びに関して質問されると「できることと裏側にある弊害についても



ネットワークをけん引しミーティングに参加した本学の先生方

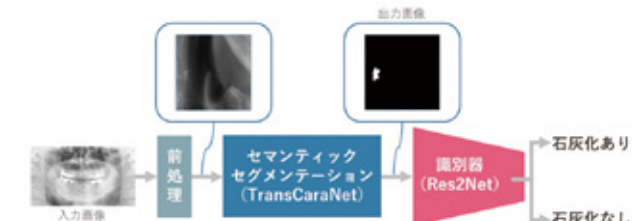
医師がよい」などと助言していた。続いて総会を行い、NDIN世話人代表に植田特任教授を再任し、来年度も活発な活動を継続することを決めた。

特別講演では、本学歯学部長で生化学講座の宇田川信之教授が「骨はダイナミックに躍動している―骨吸収と骨形成のカップリングメカニズム―」をテーマに話した。宇田川教授は、自身も加わる研究班が1998年に破骨細胞分化因子（RANK）を発見し、その後、RANKLのデコイ受容体であるオステオプ

## 研修歯科医・中村葵さんが 日本小児歯科学会学部学生優秀賞を受賞

公益社団法人・日本小児歯科学会では、6学年の学生において小児歯科学の学業および臨床成績が優秀であり、小児歯科学へ高い意気込みを持った学部学生対象者に対し「日本小児歯科学会学部学生優秀賞」を設置し、賞状と記念品を贈呈しています。

2023年度の選考では、中村葵さんが学生優秀賞として承認されました。中村さんは小児歯科学の成績が優秀であり、小児歯科学の臨床実習での成績が極めて優秀であったことから受賞となりました。表彰された優秀者は、その学業や臨床態度・技能・知識が周囲に認



石灰化領域を予測した出力画像から識別器により石灰化判定を行う

病院だより vol.57

## 頸動脈石灰化病変の 診断システム構築に向けて

頸動脈超音波検査は、医科における代表的な頸動脈狭窄症における画像検査で、最も簡便で一般的であり、放射線被曝なく安心して行える検査である。また、頸動脈MRI・MRAは三次元的に動脈の狭窄の有無、形状を画像診断することができ、しかしながら、遅い血流や乱流により信号低下がおこり、狭窄率を過大評価することがあるという欠点もある。

造影CT検査は、頸動脈におけるプラークの石灰化の評価や大動脈などの病変の診断も併せて行うことができる。血管撮影検査DSA（Digital Subtraction Angiography）は、大腿動脈からカテーテルを挿入して造影剤を用いて頸動脈狭窄部を非常に正確に評価するものである。しかしながら入院が必要であり、体には負担がかかる検査である。これらの検査により頸動脈狭窄症を診断することは重要ではあるが、患者自身の負担になることもある。

現在政府により医療情報の共通利用として歯科エックス画像の収載が検討されており、地域医療データベース構想が推進されている。この構想に歯科画像をデータ化する場合は、パノラマエックス線画像が最適であるとされている。そこで歯科における画像データから頸動脈石灰化病変の早

期診断の可能性と実用化に向けてCAD（Computer Aided Diagnosis/Detection）システムの検討を行っている。このように、現在では画像解析法の検討により、頸動脈石灰化病変以外の誤検出を減少させることができるようになってきた。この頸動脈石灰化を、パノラマエックス線画像からAI化により画像診断することが重要である。また、パノラマエックス線画像は、骨やその他の組織を含む非常に複雑な画像であり、石灰化領域の形状や大きさも多様であり、境界の形状がいまいであるため判別が困難である。そこで、セマンティックセグメンテーション用ニューラルネットワークと識別用ニューラルネットワークを直列に接続した、深層学習に基づく判定器を用いた高性能な識別AIシステムの構築（図）と、このシステムの特許申請も同時に行っている。

より安全で確かな歯科インプラント治療を目指し研さんする歯科医療関係者でつくる「長野県歯科インプラントネットワーク（NDIN）」（世話人代表・植田章夫 本学口腔インプラント科特任教授）の第12回ミーティングが3月24日（日）、松本市立博物館で開かれた。市民公開講座や会員向けに特別講演などを行い、最新情報を共有し、学び合った。

市民公開講座では、信州大学医学部歯科口腔外科学教室の酒井洋徳講師が「歯科インプラント治療でできること・起きること」NDINの関わり」と題して講演した。座長は本学口腔顎顔面外科学講座の栗原祐史教授が務めた。酒井講師は「インプラント治療の完成度は年々高まり、現在は予知性の高い治療になってきた」としつつ、上顎洞内へのインプラント迷入や下歯槽神経麻痺などトラブルの可能性もあることを丁寧に説明。参加者から、受診先選びに関して質問されると「できることと裏側にある弊害についても

医師がよい」などと助言していた。続いて総会を行い、NDIN世話人代表に植田特任教授を再任し、来年度も活発な活動を継続することを決めた。

特別講演では、本学歯学部長で生化学講座の宇田川信之教授が「骨はダイナミックに躍動している―骨吸収と骨形成のカップリングメカニズム―」をテーマに話した。宇田川教授は、自身も加わる研究班が1998年に破骨細胞分化因子（RANK）を発見し、その後、RANKLのデコイ受容体であるオステオプ



受賞を喜ぶ中村さん



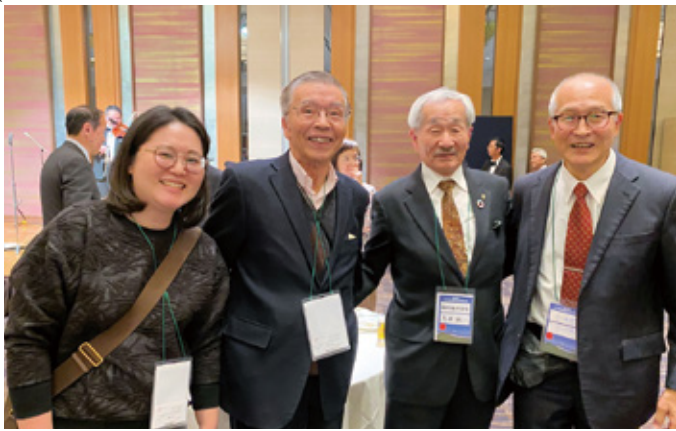
## 『歯科医療は楽しくて生きがいがある素晴らしい仕事』(上)

### ―50年の臨床経験から歯科世界への期待―

本学25期生・今井美恵先生（公益社団法人福岡医療たたりハビリティーション病院歯科科長）が師事する河原英雄先生は、九州歯科大学卒業後、福岡市で開業され、日本顎咬学会長、日本審美歯科協会会長などを歴任。現在は「超高齢時代の歯科医療対応」をテーマに、義歯治療を通して口腔機能維持や回復が、健康・認知機能・ADLといった患者さんの生活に直結していることを日本だけでなく海外にまで発信されています。河原先生主宰の「前歯でも噛める入れ歯研究」インストラクターでもある今井先生が、河原先生に50年の歯科医師人生の振り返っていただくインタビューをしました。3回に分けて紹介します。

#### 学生時代の思い出や印象に残っていることは何でしょうか？

私は1961（昭和36）年、九州歯科大学に入学、2年後に厚生省の奨学生となりました。現役の歯学部の方には考えられないと思いますが、教養時代、勉強は後回しで夏休みは仲間とハワイアン音楽の演奏旅行で九州各地を回り、写真部では花や昆虫を追いかけて撮影していました。



筆者と河原先生（左から2番目。昨年の日本統合医療学会で鳥巣誠一、米山武義両先生と）

1962年、「養老院」で撮影を続けました。当時の高齢者施設は養老院と呼ばれ、65歳以上の身寄りのない比較的元気な方が共同生活を行う「みんなで賄い、掃除、庭の手入れなど助け合う、支え合う」そんな共同生活の場でした。当時は救急車や救急医療、車椅子もない、リハビリもない、介護士さんもない。つまり現在のような医療や介護は存在しないため、寝たきりの有病高齢者は施設にいませんでした。1

#### 「歯を直すは、愛の業」という言葉を大切にされていますが、どんな意味があるのでしょうか？

厚生省の奨学生ですから、卒業後は厚生省の勤務を約束していたのですが、私の事について全く口を出さない親父でしたが「お前には公務員は絶対務まらない」の一言で奨学金返済することになりました。卒業後1年26歳で、福岡市で開業していた歯科医院を借りて開業いたしました。開業祝に「歯を直すは、愛の業」という、上皇様の皇太子時代に書道を指導された先生からいただいた言葉です。歯科医師として働く私に「歯を治療するだけではなく、患者さんの心や気持ちまでも立ち直らせる、そんな愛ある歯科医師を目指してください」との期待を込めていただいたものです。「自分が受けた治療」「自分の家族に受けて欲しい治療」「患者さんが、楽しくなる治療」を目指しました。

4年生になってからは、地元の豊永美津糸先生の医院見学に邁進しました。夏休み冬休みは、クラブ活動のお付き合いをすることもなく、豊永医院の技工室で見るもの聴くもの全てが、驚きで約3年間続けました。卒業後は豊永医院に勤務させ

てもらうことになり、医院の環境には慣れていたもので、すぐに臨床の指導を受けて早々に診療を開始する事ができました。平日は弁当を2つ持参して豊永医院の勤務終了後に、同じ街の田中良種先生の夜間技工作業の見学をさせていただきまし。日曜日は豊永先生の自費の技工を1日中見学させていただきまし。1日でも早く歯科医師として慣れていくように努めていました。休みのないことに全く苦勞がなかったことは、本当に歯科が好きだったのだと、今思っています。

## 新教授紹介（2024年4月1日付就任）

生物学

教授 安藤 宏



安藤 宏教授

このたび、生物学教授に就任させていただきますことになりました。学内および校友の皆様にご挨拶申し上げます。

私は東京都立大学大学院生物学専攻の修士・博士課程を通して神経生物学を学びました。松本歯科大学口腔生理学講座に助手として着任、生物学へ准教授として異動、現在に至るまで様々な講義を聴講させていただきました。

歯科矯正学講座

教授 影山 徹



影山 徹教授

このたび、歯科矯正学講座教授を拝命し、4月1日付で就任させていただきますこととなりました。学内および校友の皆様には、本紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

矯正歯科では患者さんのニーズに応えられるよう大学病院としての治療の質を担保しつつ幅広い矯正治療を提供しております。私の矯正臨床と研究の原点は出口敏雄教授、故・栗原三郎教授、山田一尋教授と脈々と受け継がれてきた松本歯科大学歯科矯正学講座の磐石な基盤により養われました。診療においては当診療科の伝統を踏襲しつつ

く機会に恵まれ、全てが私の知識の源になっています。生物学は、細胞の分子から全身まで対象は幅広く、分野の垣根を自由に横断できる学問で

#### 安藤 宏教授 略歴

|          |                         |
|----------|-------------------------|
| 1992年 3月 | 東京都立大学理学部生物学科卒業         |
| 1994年 3月 | 東京都立大学理学部研究科生物学専攻修士課程修了 |
| 1998年 9月 | 東京都立大学理学部研究科生物学専攻博士課程修了 |
| 1998年10月 | 松本歯科大学歯学部口腔生理学講座 助手     |
| 2007年 4月 | 松本歯科大学歯学部口腔生理学講座 助教     |
| 2008年 4月 | 松本歯科大学歯学部口腔生理学講座 講師     |
| 2016年 4月 | 松本歯科大学歯学部生物学 准教授        |
| 2024年 4月 | 松本歯科大学歯学部生物学 教授         |

最新の矯正臨床技術を取り入れ更なる診療の質の向上に努めてまいりたいと思います。

研究においては、基礎研究では実験的歯の移動に伴う歯根周囲歯槽骨の骨改造変化や歯科矯正用アンカースクリュー周囲歯槽骨および移動歯周囲歯槽骨の組織学的変化について研究を行

#### 影山 徹教授 略歴

|          |                                                                         |
|----------|-------------------------------------------------------------------------|
| 1995年 3月 | 松本歯科大学卒業                                                                |
| 1999年 4月 | 松本歯科大学病院矯正科 助手                                                          |
| 2001年 4月 | University of Sao Paulo, Department of Orthodontics, Research associate |
| 2004年10月 | 歯学博士（新潟大学）                                                              |
| 2007年 5月 | 松本歯科大学大学院歯学独立研究科硬組織疾患制御再建学講座 講師                                         |
| 2014年 4月 | 松本歯科大学歯科矯正学講座 准教授                                                       |
| 2020年 3月 | 松本歯科大学病院矯正歯科 科長                                                         |
| 2024年 4月 | 松本歯科大学歯科矯正学講座 教授                                                        |

## Matsumoto Dental University SNS Information



LINE



X



Instagram



facebook

## 人事異動

〔配置換え〕  
下條 愛子（歯学部歯学専攻准教授）  
寺田加奈子（外来看護師室看護師）  
5月1日付  
5月1日付

## 6月行事予定

4日(火) 諏訪社・稲荷社例祭  
8日(土) 解剖諸霊位慰霊祭  
10日(月) 実験動物供養祭  
15日(土) 一日体験入学（衛生学院）  
16日(日) 一日体験入学（歯学部）  
17日(月) 一日体験入学（歯学部）  
I期試験（第5学年）  
26日(水) 発表会（金虎院）

受験生の皆さんへ

見せてほしい 君の個性 君の情熱

一日体験入学

① 6月16日(日) ② 7月21日(日) ③ 7月28日(日)

※6・7月開催分のみ掲載

開催時間 9:30～15:00 (受付9:00～)

●キャンパスツアー ●ランチ体験 ●模擬実習 ●入試説明 ●進学相談 など

※参加希望の方は、本学ホームページまたは下記までご連絡ください。

■お問い合わせ■

HOT LINE 0263-54-3210 松本歯科大学 入試広報室

www.mdu.ac.jp